

意見陳述書

2014年11月28日

陳述人 片山奈緒美

(「火葬場について考える会」会長)

私は、今回の岡山新斎場建設予定地のすぐ下に住む住民の片山奈緒美と申します。私は60名ほどの地元住民で結成された「火葬場について考える会」の会長として富吉の火葬場問題にかかわっています。本日は、今回の監査請求に関する意見陳述ということで、地元住民を代表して意見を述べさせていただきます。

まず、監査請求に至るまでの経緯についてでございます。少し長くなりますが、これは避けて通れないことですので、説明をさせていただきます。

私が問題の候補地に火葬場が作られる計画があると知ったのは、平成24年9月30日でした。これは、富吉地区臨時総会にて「条件付き賛成」との決議がなされた翌日です。候補地にもっとも近い小部落である小畑地区住民が全く知らないままに、なぜそのような重大なことが決定されているのか？いったいどういうことなのであろうか？とすぐその日に当時の富吉町内会長 入江澄氏に電話で連絡をいたしました。説明を求めましたが、「町内の最高決議機関で決まったこと。」として全く取り合っていただけませんでした。

地元住民は全く何の説明も受けていない、このようなことがあっていいのかと何度も話し合いを求めましたが、富吉地区町内会は取り合わず、連合町内会長である遠藤剛氏も、自分は三和地区の町内会長で、富吉のことには口を出せないからと全く話になりませんでした。

町内会があてにならないと感じた私たちは平成24年11月29日に、小畑と後谷地区の候補地近隣住民12世帯28名の署名をもって第1回の反対陳情書を市議会に提出いたしました。が簡単に不採択として扱われました。

その後、12月13日になって初めて、馬屋上学区住民に候補地についての説明会が行われ、岡山市は「まだ何も決まっていない。これが第一歩である。」と私たちに説明をなさいました。しかし、あとで分かることですが、同年11月28日には、馬屋上学区4町内会長連名で、斎場建設に関して、「条件を付けて承諾いたします。」との承諾書が出されていたわけです。

何も知らない私たちは、12月の説明会にて学区住民から出されたたくさんの反対意見をもとに、署名活動を起こしました。そして、平成25年1月18日に、馬屋上学区住民150世帯358名の署名をつけて第2回の反対陳情書を提出することになりました。しかし、これも簡単に不採択となり、どこに何を持って行っても聞いてもらえない状況が続きました。

平成25年4月には、富吉地区で「条件付き賛成」をとった町内会3役全員が任期満了に

なるということで辞任し、新しい会長に交代しました。しかし、前役員からの申し送りで一回とった決議を変えることはしない、という方針は引き継がれ、町内会で話し合われることはありませんでしたが、私たちの執拗な申し入れにより、申し訳程度の富吉町内会に対しての説明会が岡山市より行われました。その時には反対意見と質問が相次ぎ、時間の都合上文書にまとめて提出する形となりました。そして、私たちの質問に対する回答が後日岡山市から届きました。これがその時の回答です。私たちの疑問に正対した回答は何もありませんでした。

富吉の町内では誰もがややこしい問題に巻き込まれたくない、面倒なことには首を突っ込まない方がいい、今後のご近所付き合いのこともあるから・・・など、同じ地域で生活しながら、あの人は賛成派、この人は反対派、と疑心暗鬼的な不穏な空気に包まれておりました。

岡山市との協議窓口である町内会役員はだれも口を開かず、ただ時が流れていき、いったいどうなっているのか住民に何も情報がないまま時間が過ぎました。

そうこうしているうちに突然、8月18日に第2回馬屋上学区説明会を行います、という案内が各戸に届きました。しかし、その内容はなんと、平成24年10月15日付の4町内会長連名で岡山市へと提出された「要望書」に対する回答ということでした。

しかし、この「要望書」についても、地元住民は一切知らされていなかったのです。この時になって住民は初めて、「要望書」「承諾書」の存在を知ることとなりました。説明会は反対の意見が続出し紛糾しました。再度各町内会で集まりを持ち、賛否を問おうということになり、散会したのですが、その後集まりを持ったのは三和町内会のみでした。

とりわけ、富吉町内会においてはもっとも地元だということにもかかわらず、町内会が全く動こうとしないので、住民の3分の1の署名を集め、臨時総会を請求しました。しかし、これさえも会長の「総会の必要はない」との独断で、開催されることはなかったのです。

そこで、富吉地区内の10の小部落から出ている10名の総代のうち4総代の連名にて臨時総会を全戸に呼びかけ、招集しました。ところが、この直前には、岡山市市民局長名で「斎場候補地決定の通知書」が配られ、「今回の臨時総会は町内会が一切関知するところではない」との文書まで配られました。地元住民は、「やはりもう決まってしまったのだから、何を言ってもむだだろう。」とあきらめムードでした。それでも委任状を含め60名の参加がありました。厳重な投票により、あの候補地への斎場建設についてどう考えるか、賛否をとりました。

結果は、賛成3票・反対53票と圧倒的に反対が多かったのです。しかし、この結果を岡山市は、町内会からのものではないと受け付けませんでした。

このように岡山市と町内会長が結託して地元住民からの声を抹消してきたわけです。この

ことに疑問をもった私たちは馬屋上学区全戸に向けて「火葬場について考える会通信」として発信しました。そして同年12月議会にて出された用地購入に関して反対運動をしてきました。「火葬場について考える会通信」は、資料11として付けております。

平成25年12月当時、岡山市議会の方々にもこの問題を投げかけ、予算凍結を訴えました。確かにこの段階では「これは無茶なやり方だ。」と市議会も揺れたはずでした。しかしながら「大森岡山市長の初登壇の議会である」という理由で予算凍結にはおよばず、議会を通過してしまっただけです。しかも、産業廃棄物処分場跡地であるにもかかわらず、4億6千万円という破格の地価です。

監査請求書類にも書かれている通り、産業廃棄物処分場跡地を「宅地」として鑑定するのはあまりに常軌を逸したものではないかと、地元住民は感じております。該当地のすぐ裏にある山林は、我が家の所有するものです。ここに固定資産税課税明細書があります。該当地の裏山に位置し、雑種地として登録されてる我が家の土地は、969㎡で評価額35,853円となっております。1㎡あたりに換算すると、37円の土地なのです。近くの山林は、1㎡あたり15円～20円程度です。

該当地の鑑定額を見ると、1㎡あたり23,000円となっております。実に621倍の評価額です。吉備新線という幹線道路に面していることを加味しても、これほどまでに、土地価格というものは鑑定額が変わるものなのでしょうか。

こんなに高額な土地を買うくらいなら、もっと適した山林が安い価格であるはずなのです。それを検討し地元と話し合い、折り合いをつけ、新斎場建設の段取りをつけるのが、行政の役割なのではないかと考えます。

もう一つ、腑に落ちないことは、平成24年9月29日に行われた富吉地区臨時総会にて、会長の口から、「宅地並みで買ってもらえる。」という言葉があることです。ここに、臨時総会の議事録があり、そのことはきちんと記録として残っております。なぜ、「宅地並み」などという言葉が出たのでしょうか。行政側からの提案がなければ、このような言葉が出るはずはありません。

さらに、安定型産業廃棄物処分場といえども、全国的にも数々の問題を起こし、日本弁護士連合会においてもその危険性を指摘され、法律改正にまでいたっているのが現状です。今回購入した産廃跡地は法律改正以前から埋め立てられているものであり、適切に安定5品目が埋め立てられたものであるという保証はどこにもありません。なのに、安全性の調査もせず買い急ぐなど、到底納得できるものではありません。

今回動いた、4億4千万円もの大金は、岡山市民の税金、血税です。こんなにも簡単に、短期間の審議で4億円を超える大金がポンと出される現状を一岡山市民として見逃すわけにはいきません。

しかも、購入した後に、安全性の調査としてさらなる支出を岡山市は市議会で通しました。産廃跡地の形質変更に係る調査委託費として4500万円など、岡山市が負担するべきものではないと考えます。これは、土地を所有していた業者側が支払うべきものではなんでしょうか。なぜ、業者が有利な条件で、早々と土地を購入しなけりばならなかつたのかいくら考えても理解できません。

また、斎場建設という難しい行政上の課題を、一業者・一団体との内内の合意のもとに地元住民の意見を軽視して押し進めようという行政の在り方は、岡山市民局はじめ岡山市役所全体の公務員としての資質を疑わざるを得ないほどの重要な問題だと感じています。このようなことが岡山市行政のあちこちで行われているから、健全な財政が維持されず、次世代へと借金を先送りするだけなのです。今こそ本気で財政再建、市民からの信頼回復に努めるべきではないでしょうか。責任の所在がはっきりしないから、たらいまわしになり、誰も責任を取らない、だからこんな無茶な方法で政策を進めてしまうことになるのではないかと危惧します。

岡山市におかれましては、真摯に対応し、もう一度初めに戻り、候補地を限定するのではなく、折り合いをつけることのできる場所を探すべきです。そして、候補地に対して今回支出した4億6千万円もの血税は、きちんと補填していただきたいと考えます。

私は教育者のはしくれとして岡山市の行政に携わる方々皆様に訴えたいと思います。子どもたちに恥ずかしくないような働きをしていただきたい。子どもたちが「大人になったら、やっぱりきちんと税金は払わなくっちゃ。」と思えるような税金の使い方をしていただきたいと思います。誠意をもって人とかかわることで世の中は動かせると思います。決して自分の利益で動かないでいただきたいです。面倒でも話し合いを大切にしてください。

古い言葉ですが、「世のため、人のため。」と思える子どもたちを育てようと私たちは日々、子どもたちと向き合っています。どうか行政機関の一員として人の上に立つ皆様方には常に住民の目線に立ってお仕事をしていただきたく心よりお願い申し上げます。